近年国際的な再評価が高まる大衆文学
—代表的なアメリカ西部大衆小説をセレクト—

American Popular Literature Series

POPULAR WESTERN LITERATURE 10 vols.

【アメリカ西部大衆小説選集】
Part 1 : THE 19th CENTURY

監修・解説：山里勝己
（琉球大学教授、ASLE-Japan/文学・環境学会前代表）

体裁　A5判（210×148ミリ）/上製本・総ページ数　約3,350頁
全10巻（合本8冊）セット定価　本体152,000円(税込159,600円)
ISBN4-902708-04-3 C3397

Athena Press

刊行によせて

山里勝己　琉球大学教授、ASLE-Japan/文学・環境学会前代表

近年のアメリカ文学史の再編成に伴う変化の一つは、アメリカ西部大衆文学に対する評価であろう。例えば、Robert E. Spiller等の編集による*Literary History of the United States*（1948）にはこのジャンルの作品はほとんど取り上げられていない。しかし、それから40年後、その序文の冒頭にSpiller等の文学史の序文のパロディーとも思えるような挑戦的な文章を据えたEmory Elliot編の*Columbia Literary History of the United States*（1988）は、"Literature for the Populace"と題する1章を設けてアメリカ19世紀大衆文学の再評価を試みている。ここには、例えば、出版された年に30万部を売った最初の「ダイム・ノベル」、Ann Sophia Stephensの*Malaeska, the Indian Wife of the White Hunter*（1860）をはじめ、多くの西部を描く作品が取り上げられている。

さらに、1995年に刊行されたSacvan Bercovitch編の*Cambridge History of American Literature*（第2巻、1820−1865）を繙いてみると、ここでも西部を主題とする多くの大衆小説が取り上げられ、このジャンルが近年の文学史の再編、再評価に重要な役割を果たしていることが理解されるのである。

この一連の動きは、もちろん、フェミニズムや多文化主義の成果を取り入れながらアメリカ文学の枠組みを拡大し、同時にこれまで無視されてきた書き手やジャンルにもきちんとした目配りをすることで、新しいアメリカ文学史を編成しようとする試みを反映するものである。アメリカ西部を主題とする大衆小説も、そのような再編成のダイナミズムの中で、シリアスな研究の対象として再認識されるようになってきたと言えよう。

「西部」は、<アメリカとは何か>という、アメリカ文化史をつらぬく古くて新しい問題と無縁ではあり得ない。むしろ、当然のことながら、「西部」を無視しては「アメリカ」を深く理解することは不可能であると言うべきであろう。「西部」は、西進するフロンティアの向こう側に存在し、つねにアメリカの想像力と欲望をかき立て、移動をくり返す大衆を「アメリカの夢」へと誘惑してきた。カウボーイ、インディアン、ガン・マン、酒場の女、ハンター、開拓地の女たち、シェリフとアウトロー、荒野の牧場、豊壌であると同時に荒涼たる姿で立ち現れるウイルダネスとそこに生活を築こうとする人間、おびただしい数の野生動物、フロンティアの西進（あるいは境界侵犯）がもたらす激しい葛藤――。神話化された「西部」のイメージは現代アメリカの想像力の中に生き残り、アメリカの歴史とアイデンティティを再構築するエネルギーの源泉になっている。そしてこのようなオールド・ウェストとその神話の原型は、20世紀から21世紀にかけて「エイリアン」が息づくSFの世界にまで浸透し、「ニュー・フロンティア」の神話を再生し続ける。

本シリーズPart Ⅰでは19世紀の代表的な西部大衆小説の作品を選択してみた。ここに収録された作品を再検討、再評価することで斬新なアメリカ文化研究とアメリカ像の構築が進展することを期待したい。

アメリカ西部大衆小説選集を推薦します。

ジャック・ヒックス　カリフォルニア大学デイヴィス校英文科教授、『カリフォルニアの文学』全2巻（カリフォルニア大学出版局）編者

山里勝己教授監修・解説によるアメリカ西部大衆小説選集は、19世紀と20世紀前半のアメリカ西部に焦点を合わせた長編小説を集めたものである。本選集に収録された作品は、現在アメリカの研究大学で注目を集めつつあるものであり、本選集の刊行は一つの里程標となるであろう。

近年、西部とカリフォルニアを題材とする文学研究がアメリカにおいて注目されるようになってきた。過去10年を振り返ってみても、学部と大学院においてこの分野に関する科目が多く提供されるようになり、数多くの研究論文や研究書が出版され、少なくとも5冊の大部のアンソロジーが出版されている。アンソロジーの多くは本選集に収録された作家たちと同時代人であるブレット・ハートやマーク・トゥウェインから始まるが、ここに収録された10巻は大衆文化やカルチュラル・スタディーズの視点から研究を補強するものになるだろう。このようなかたちで作品が復刻出版されることは、西部大衆小説に対する近年の関心の高まりと研究の進展に対する大きな貢献と言うべきである。

私たちはさまざまな理由で本選集に収録された小説を読む。まず第一に、この10巻はアメリカ合衆国文学史においても重要なテクストなのである。つまり、これらの小説は多くの読者に読まれ、国民的神話を形成する一助となったものなのだ。「ホレイショ・アルジャーの物語」とは、努力することで誰でも成功することができるという「アメリカの夢」を語るものであるが、これは19世紀から20世紀初頭にかけて活躍した人気作家ホレイショ・アルジャーの100編を越える作品群を一括して呼ぶときに使われる言葉である。アメリカ西部大衆小説選集に収録された作品の多くは、ホレイショ・アルジャーの物語よりも時期的に早く、物語もフロンティアとアメリカ西部の形成に焦点を合わせたものが多いが、大衆的な人気という点ではアルジャーの作品に決してひけをとらないものばかりなのである。

例えば、アン・S・スティーヴンズの『マラエスカ――白人猟師のインディアン妻』（1860）は、ビードル・アンド・アダム社が出版した最初の「ダイム・ノベル」であるが、初年度だけで30万部売れるほどの人気を博したものである。これはまことに驚くべき数字であろう。これ以降、多くの作家が19世紀の歴史上の人物を伝説的人物像に書き換え、アメリカ的想像力の形成に重要な影響を与えたのであった。例えば、ネッド・バントラインが大衆小説（ダイム・ノベル）においてバッファロー・ビルのファンタジーを創り上げたように、ジェームズ・ストレンジ・フレンチはデイヴィー・クロケットの伝説を創造し、エドワード・エリスはキット・カーソンを創り出したのであった。これらは全員がフロンティアのヒーローであり、アメリカ大衆小説の中で西部開拓の伝説的な人物像として描かれる存在である。

大衆小説の中には、実在のインディアンに焦点を合わせたものがある。例えば、ショーニー族の予言者エルクスワタワを描いたジェームズ・ストレンジ・フレンチの『エルクスワタワ――西部の予言者』がその一例である。フレンチも、『森のニック』を書いたロバート・モンゴメリー・バードも、白人が西部に移動するにつれて土地を追われ殺害された先住民たちに深い共感を示すことはなかった。バードに言わせれば、インディアンは「無知で、凶暴で、卑しく、残忍」な存在であった。先住民と西部に浸透するユーロ・アメリカンの戦いを描いたこのような初期の作品は、アメリカの国家的野心の結果としてもたらされた恥ずべき遺産について読者に多くのことを語りかける。

アルフレッド・ヘンリー・ルイスの『ウルフヴィル』（1897）のような作品に見られるように、多くの大衆小説には荒涼たる西部のフロンティアの町が描かれ、そこにはならず者や無頼の徒、ラバ追い、六連発銃を手にした保安官（例えば伝説的な人物バット・マスターソン）などが登場した。これらは社会や家族や教会や裁判所のような、文明を遠く離れた新しい領域のイメージを形成した人物像であった。

本選集に収録した長編ロマンスは、そのひとつひとつが大衆の想像力を虜にし、アメリカの白人の想像力に影響を与えたものばかりである。つまり、白人たちは自らを「処女地（ヴァージン・ランド）」と「野蛮な」インディアン諸部族を征服しつつ、とどまることなく西部に向かう運命を課せられた人間であると想像するようになった。このような小説がデイヴィー・クロケットやダニエル・ブーンやバッファロー・ビルを荒唐無稽に描いたとしても、西部の典型的人物像（アーキタイプ）としてのアメリカン・カウボーイの神話はこのような物語の中から生まれてきたのであった。好むと好まざるとにかかわらず、この哲学はアメリカの日常生活にいまもなお生きている。そして、例えば、『リン・マクリーン』を書いたオーウェン・ウィスターは、高潔で寡黙、そして孤独なカウボーイの伝説を創造した作家として、アメリカ文学史と文化史においていまでも重要な存在なのである。

本選集に収録された小説は、アメリカに内在する自然環境と人間との葛藤を早い時期に描いたものでもある。この葛藤は現代に至るまで連綿と続くものであるが、「処女地」は人間を鼓舞する壮大で無垢なものとして描かれるかと思えば、その一方で自然は不安定で恐ろしいものであり、反人間的な存在としてとらえられる。自然環境は、暗い森、危険な砂漠、竜巻、恐ろしい吹雪、荒れ狂う川の流れ、大平原の火事として表象される現象でもあった。ホーソーンの「若きグッドマン・ブラウン」に見るように、ピューリタンにとっては自然は悪魔の巣窟であった。この後、20年ほど経過して出版されるようになった西部大衆小説では、森や山脈や砂漠や川は人間に畏敬の念を抱かせるものであると同時に、<マニフェスト・デスティニー>という思想に約束された国家的「宿命」に対する大きな障害として描かれるようになる。

要するに、本シリーズに収録された小説は、しばしば若い国家としてのアメリカをテーマとし、読者はそこに描かれた冒険や悲劇や栄光に満ちた勝利に心を揺さぶられ誘惑されたのである。西部を描く小説は大衆の現実逃避のためのファンタジーでもあったが、それだけにとどまらず、それはジャーナリストのホレス・グリーリの有名な言葉「若者よ、西に行け！」（Go West, Young Man!）に耳を傾けた者にとっては、西に向かうための教科書であり、実用的なガイドブックの役割をも果たしたのであった。本選集に収録された作品は、我々がどこから来て、いかにしていまの我々が誕生したかを教えてくれる地図のようなものなのである。

（山里勝己訳）

原寸大ページ見本
A5(210×148mm)

them on horseback. They all came riding along as quiet as cats but watching round on every side. Uncle waited till the two Indians were right opposite them, and then whistled — *crack!* went the guns so close together you could not hear but one sound — off came both Indians, and out jumped Uncle sicking on Bose and Trailer, while Mr. Braston ran for old George. At the crack of the gun Nasho looked back to see what it was, but when the Indians fell he commenced kicking his pony, and putting his quirt to him, but before he could get fairly started Bose and Trailer had caught up with him, and Bose nabbed the the pony by his long mane on one side, and Trailer on the other, and pulled down on him so heavy he couldn't run. Quick as a flash Nasho pulled out his butcher-knife and stabbed poor Bose in the neck, and he hollered and let loose, but before he could stab Trailer Uncle was there and grabbed him around the waist, and jerked him off the pony, and took the knife away from him. Mr. Braston came up full jump and caught the pony by his long trailing bridle-rope, and tied him to a tree, and tied Nasho's hands behind his back with the end of it. Then they went back and caught the horses of the Indians which had

アメリカ大衆文学・文化史、フロンティア文学、植民地史研究に必携な第一級資料。

CONTENTS

Volume 1
James Strange French (1807–86)
Elkswatawa; or, The Prophet of the West: A Tale of the Frontier
New York: Harper, 1836・2 vols., c. 500 pp.

Volume 2
Robert Montgomery Bird (1806–54)
Nick of the Woods; or, The Jibbenainosay: A Tale of Kentucky
New York: Redfield, 1860 (first published 1837)・c. 390 pp.

Volume 3
Charles Wilkins Webber (1819–56)
Old Hicks, the Guide; or, Adventures in the Camanche Country in Search of a Gold Mine
New York: Harper, 1855 (first published 1848)・c. 350 pp.

Volume 4
Emerson Bennett (1822–1905)
The Prairie Flower; or, Adventures in the Far West
Philadelphia: Peterson, 1889 (first published 1849)・c. 250 pp.

Volume 5
Ann Sophia Stephens (1813–86)
Malaeska, the Indian Wife of the White Hunter
New York: Day, 1929 (first published 1860)・c. 270 pp.

Volume 6
Edward Sylvester Ellis (1840–1916)
Seth Jones; or, The Captives of the Frontier
New York: Hurst, 1910 (first published 1860)・c. 250 pp.

Volume 7
"Arthur Morecamp" (Thomas Pilgrim, d. 1882)
Live Boys; or, Charley and Nasho in Texas
Boston: Lee and Shepard & New York: Dillingham, 1879 (first published 1878)・c. 310 pp.

Volume 8
Alfred Henry Lewis ("Dan Quin", c. 1857–1914)
Wolfville
New York: Stokes, 1897・c. 350 pp.

Volume 9
Owen Wister (1860–1938)
Lin McLean
New York: Harper, 1898 (first published 1897)・c. 290 pp.

Volume 10
Emerson Hough (1857–1923)
The Girl at the Halfway House: A Story of the Plains
New York: Appleton, 1900・c. 380 pp.

★Part2のVolumes 3と4を合本して1冊に。また、Volumes 5と6を合本して1冊に製本。

American Popular Literature Series 今後の刊行計画

American Gothic
監修・解説:巽　孝之(慶應義塾大学教授)　**2005年秋刊行予定**

Selected Works of Ernest Thompson Seton
監修・解説:野田　研一(立教大学教授)　**2005年秋刊行予定**

『**POPULAR WESTERN LITERATURE, Part 2 : 1900-40**』2006年春刊行予定(Part 2 で完結)

【発　行】
(株)アティーナ・プレス
Athena Press
〒112-0011　東京都文京区千石4-33-18
Tel：03(3946)2117
Fax：03(5977)8026
E-mail：eigyo@athena-press.co.jp

【取扱書店】

04.11